

週報



四つのテスト

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

福岡中央
ロータリークラブ

「UNITE FOR GOOD」
2025-2026年度 国際ロータリー会長
Francesco Arezzo

よいことの
ために
手を取りあおう



「少しの成長から始まります
ー1.01で成長、0.99で衰退ー」
国際ロータリー第2700地区
2025-2026年度 ガバナー 濱野 良彦

「「PLUS」～少しの成長、そして確実な成長～」
2025-2026年度 福岡中央ロータリークラブ
会長 竹下 盛人 幹事 田中 明子

本日の例会 令和8年2月9日（第2138回）VOL.49 No.23

卓話

「マスメディアの現在地～選挙報道で見えること」
合同会社hammar's 代表 浜崎正樹さん

平和構築と紛争予防月間

今後の
例会予定

- ・2月16日(月) 卓話 (株)ホーホウ代表取締役 木藤亮太さん ※会場は2階プレジール
- ・2月23日(月) 休会
- ・3月 2日(月) 卓話 自分ゴキゲン研究所代表 百田美砂さん

「雪の高野山 御影堂（高野山壇上伽藍）」



令和6年12月、第8回四国遍路結願の報告に高野山に登った時のものです。朝早くから、若い修行僧の皆さんが弘法大師を祀る御影堂（国宝）に参詣する光景に出会いました。日々修行を続ける若い人たちに刺激されて改めて自分を見直す時間となりました。

山手誠之助

例会日…毎週月曜日 12:30～13:30 例会場・事務局…西鉄グランドホテル
TEL 714-0305 FAX 714-0311 E-mail fukuoka-chuo-rc@wind.ocn.ne.jp HP <http://www.fukuoka-chuo-rc.jp>

前週例会の記録(2月2日)

出席報告

| 前回例会 2月2日 | | 前々回例会 1月26日 | |
|-----------|--------|-------------|--------|
| 会 員 数 | 53名 | 会 員 数 | 53名 |
| 出席会員 | 45名 | 出席会員 | 45名 |
| ビジター他 | 2名 | 修 正 | 1名 |
| 合 計 | 47名 | 免 除 | 0名 |
| 出 席 率 | 84.91% | 修正後出席率 | 86.79% |

会長の時間

竹下 盛人会長

前回1/21(水)の「福岡エアポートロータリークラブ加盟認証状伝達式」へ参加した様子を報告させて頂きましたが、その時の引き出物の中に3冊の漫画が入っていました。今回はその中の、知ってそうで知らない「ポール・ハリス物語」を紹介すると共に、同席頂いた3年前の第4Gガバナー補佐 福岡南RC安部光吉さんから、「ガバナー補佐日記」という1冊の本が送られてきましたので併せて紹介させて頂きます(笑)。漫画を読み、改めてロータリークラブ創立の時代背景や設立の動機は何だったんだろう?に、興味が湧いたからです。

又、安部さんの本にも面白いワードが多々あります。例えば、ロータリアンの行動指針に「4つのテスト」が有る。それより大事なものは「自分の為になるかどうか」だろう～、とか、「ロータリー活動とは仕事の片手間にやるものだ」とか…。ユニークですが妙に腹落ちします(笑)。さて、ロータリークラブですが、皆さんご存知の通り1905年、今から120年前アメリカシカゴでポールハリス弁護士を中心とした同志4人でロータリークラブが設立されます。

安部さん曰く、「ポール・ハリス」と云う名前は「ポール・マッカートニー」と「ジョージ・ハリソン・リソン」を足して2で割れば覚えろーが、との事です(笑)。

因みに、発起人4人が其々に友人を誘い入れ、メンバーが増えていく毎に「集い」は、会員の店や事務所を順に回る事としました。是が「ロータリー」の語源となったそうです。

ではなぜロータリーが生まれたか?その頃のシカゴは、差別、暴力、無法の時代、荒廃した街でした。「なんとかしなければならぬ」と思った4人組、じゃあどうする?「そうだ!何をしなくてはいけないか、毎週集まって考えよう」とても呑気な集団ですが、それが、ロータリーの始まりとなる訳です。しかしその後、120年間で世界120万人を要する世界的組織

団体に成長するのです。

では、なぜ当時のシカゴがそれほど荒廃したのでしょうか。「疑問1」が生じます。それは、「鉄道」による「急速な都市化」と、人々の「孤立」です。シカゴはアメリカ中西部の中心に位置し、鉄道網が東西南北へ伸びる「ハブ都市」として発展、19世紀末から20世紀初頭には、全米の鉄道網がシカゴで交差し、五大湖とミシシッピ川流域を結び、物流の一大拠点となり、「人・物・資本」が集中しました。そこに労働力としての「移民」が大量流入される。勿論、金融商業も発展します。鉄道産業の発展に伴い、穀物取引所や銀行保険など金融関連業も大きく成長します。で、どうなった?

急速な都市化により、人々の繋がりが希薄となり、孤独や信頼の欠如が、社会問題となります。所謂、「都市化と孤独」です。自由主義経済の過熱により、過当競争・誇大広告・不正行為が横行し、商道德が著しく低下します。又、利益追求が優先され、誠実さや公正さといった職業倫理が軽視されていきました。そんな社会背景を受け、確かに、それじゃあ～つまらん。と、先出の4人がロータリーを作った。

では、なぜ経済人に認知され、更に、社会に受け入れられたのか?「疑問2」が生じます。

1.急成長都市シカゴで、信頼関係が求められていた。(都市には田舎から人が出て来る、人は常に孤独を抱え絆を求めている、だから経済活動における信用と信頼は、絶対的な必要性があった。)

2.異なる職業の専門家が協力する場が必要だった。(仕事は1人ではできない。異業種のネットワークが必要。又、相互理解を深める為の親睦が絆を深めた。)

3.商取引で得られた利益を社会に還元する奉仕の精神。(弱者を支援し、社会を改善しようとする理念が社会に受け入れられた。)

4.何よりも「ポール・ハリス」の理念と情熱とリーダーシップが人々を結びつけ、組織としての形を整える推進力となった。

なるほど、理解ができた。しかし、「疑問3」が生じる。何故?120年間の間に120万人の会員を要する組織団体に成長したのか。荒廃した社会に秩序と倫理、道徳を根付かせたロータリーだか、逆に言えばこの120年間、差別、暴力、無法の、荒廃した国や地域が絶えなかったのではないか?

確かに、現在進行形で「ロシアとウクライナ」「アメリカとベネゼイラ」「イスラエルとガザ、レバノン、ヨルダン川武装勢力」...etc
ロータリーの「超我の奉仕」は、人類が続く限り、必要とされ、繋ぐべき「人としての活動」かもしれません。以上「会長の時間」でした。